資料3－1

令和6年度第1回高幡地域アクションプランフォローアップ会議資料

第５期高幡地域アクションプランの
進捗状況確認資料

高　幡　地　域　本　部

令和６年 10 月 22 日（火）

高幡地域アクションプランの進捗状況確認資料

R6.10.22
高幡地域本部

1　地域アクションプランの令和 6 年度上半期の実施状況(総括)

(1)総評

令和 6 年度は、須崎市における「スケートパークを核とした地域の活性化」を新たに加えた全 25 項目のアクションプランについて、実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、各種支援制度の活用等により、それぞれの目標の達成に向けて取り組みを進めている。

一次産業、商工業分野では生産体制の強化や販売拡大に取り組むとともに、観光分野では「どっぷり高知旅キャンペーン」と連動した取り組みや、地域の魅力ある観光資源を生かした周遊促進及び滞在期間の延長を図り、地域経済への波及効果につながるよう取り組みを進めている。

農業分野

施設園芸分野では、ミョウガの栽培管理のための基本技術の周知と改善を図りながら、収量・品質の向上及び担い手の確保と育成に努めるとともに、販売・消費拡大を進めている。

また、露地では栗・芋の栽培面積や加工品販売の拡大に取り組んでおり、中山間地域における雇用の創出を図っている。

畜産業では、梼原町産キジ肉や四万十ポークの認知度の向上やブランド化に向けて、生産体制の強化、加工品開発及び販路拡大に取り組んでいる。

林業分野

梼原町において、次世代へ引き継ぐ環境づくりと経済の循環を目指して、森林の皆伐や再造林、木工品やアロマオイルの商品開発のほか、イベント等の開催による新たな交流人口の拡大に向けた取り組みを進めている。

水産業分野

マダイでは、加工商品の開発や個別商談による販路の拡大に取り組み、アメゴでは、デジタル技術を活用した安定的な生産と本格的な販路開拓を進めており、地域における養殖事業の振興を図っている。

商工業分野

既存商品の磨き上げや特色のある新商品開発に取り組み、道の駅や農産物直販所における品揃えの充実、大都市圏やニーズのある地域への販路開拓・拡大を進めてい

る。

観光分野

　各市町において、魅力ある新たな観光拠点施設の整備が進むとともに、豊かな自然、食、文化、歴史を生かした様々なイベントの開催による交流人口の拡大に取り組んでいる。

　また、県が進める「どっぷり高知旅キャンペーン」と連携するとともに、インバウンド需要も見据えて一般社団法人奥四万十高知を中心に高幡地域の周遊促進、滞在時間の延長につなげていく取り組みを進めている。

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
農業	1	**くろしおミョウガ販売拡大プロジェクト** (須崎市･中土佐町･津野町) 【事業実施主体】 ･◎JA土佐くろしお ･須崎市 ･中土佐町 ･津野町 ･(株)E-システム JA土佐くろしお管内(須崎市･中土佐町･津野町)で栽培するミョウガの販売拡大を核として、生産体制強化に向けたデータ駆動型農業の支援、新規就農者の育成確保、販売拡大に向けた県内外消費宣伝活動に取り組む。	ミョウガ出荷量 園芸年度： ９月～８月	3,530t (R5)	3,600t	3,800t	**1　収量･品質向上** ･令和6年度の活動計画の確認(チーム会：4月) 〈基本技術の周知と改善〉 ･データ駆動型農業の実践支援 ･実証試験･調査等の実施(調査、試験：4～6月) (環境制御技術･花蕾腐敗対策･循環型溶液肥料･病害虫防除)	**1　収量･品質向上** ･活動計画の確認(JA土佐くろしお管内振興連絡協議会：5/22) 〈基本技術の周知と改善〉 ①データ駆動型農業の実践支援 ･IoPクラウド「SAWACHI」の利用登録の推進と春期の気温の上昇に伴う適正な温湿度管理の徹底（目慣らし会：4月･12回、7月･13回） ･IoPクラウド「SAWACHI」から取得した環境データと出荷データの分析(6月･2回) ②実証試験･調査等の実施 ･葉鞘腐敗症調査(4～7月･4回) ･循環処方肥料試験調査(生育調査：4～8月･6回、養液分析：5回) ･天敵(ミヤコカブリダニ)調査	3,464t ･R6到達目標達成率：96.2% ･対前年比：98.1%	**B**	**(成果)** ･Iopクラウド「SAWACHI」の利用登録者が増加(25人) ･Iopクラウド「SAWACHI」から取得したデータから、日射量が出荷量に影響していることが判明 ･ミョウガの葉鞘腐敗症に対する苗床消毒及び定植時の農薬散布の効果を確認 ･ミョウガの生育は養液の排液率が50%で順調、排液pHは定植180日後に低下を確認 ･天敵(ミヤコカブリダニ)によりハダニの抑制効果を確認 **(課題)** ･データ活用(栽培管理、収益向上等)による生産者数の向上 **(今後の方向性)** ･Iopクラウド「SAWACHI」のデータを活用した産地の収量･品質向上
			新規雇用者数(新規就農者を含む) 園芸年度： ９月～８月	６名 (R2～R5累計)	８名	10名 (R6～R9累計)	･令和6年度活動計画の確認(チーム会4月) 〈新規就農に向けた支援対策の検討および実践〉 ･新規希望者等の情報整理･共有(４～６月) ･就農相談対応(４～6月) 〈新規就農者の技術向上〉 ･現地巡回指導(４～６月)	･JA土佐くろしお管内振興連絡協議会で活動内容確認(5/22)〔再掲〕 〈新規就農者に向けた支援対策の検討および実践〉 ･新規就農者等の情報整理･共有(須崎市地域農業再生協議会幹事会：4/16,5/27、中土佐町地域農業再生協議会幹事会：4/30,5/29) ･就農相談(5/20･1人、7/31･１人) 〈新規就農者の技術向上〉 ･ミョウガの細霧装置の使用方法、農薬の適正使用の指導(目慣らし会：4月･12回、7月･13回)	7名 ･R6到達目標達成率：87.5%	**B**	**(成果)** ･関係機関が連携した新規就農者相談対応(2人) **(課題)** ･データ活用(栽培管理、収益向上等)による生産者数の向上〔再掲〕 **(今後の方向性)** ･親元就農する後継者への就農支援の強化
			販売額 園芸年度： ９月～８月	68億円 (R5)	69億円	70億円	**2　販売促進** ･令和6年度活動計画の確認(チーム会4月) 〈消費者ニーズに対応した販売〉 ･県内外消費宣伝活動(４～６月) ･地産･地消活動の提案、支援(４～6月)	**2　販売促進** ･JA土佐くろしお管内振興連絡協議会で活動内容確認(5/22)〔再掲〕 〈消費者ニーズに対応した販売〉 ･イオンでの消費宣伝(名古屋市：4/20、21　神戸市：6/1、2) ･「１(いい)３(みょうが)の日」にフレスコ青果(大阪府)のみょうが試食宣伝(6/13) ･みょうがの料理教室(①みょうが寿司～インゲン添え～②薬味たっぷりカツオのたたき③みょうがエール)(大阪市：6/15) ･「高知のみょうがを買って5,000円GETしよう」キャンペーン(5/1～8/31)(キャンペーン応募者数：85,252通)	72億円 ･R6到達目標達成率：104.3% ･対前年比：106.0%	**A**	**(成果)** ･栽培面積の減少等により出荷量は前年に比べ減少したものの、販売単価は上がり販売額が向上 **(課題)** ･継続的な消費宣伝活動の実施 **(今後の方向性)** ･県外消費宣伝活動の実施(須崎市、中土佐町、津野町の３首長によるトップセールス等)

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
農業	2	**梼原町産キジ肉の販売拡大プロジェクト** (梼原町) 【実施主体】 ・◎(株)四万川 ・梼原町 梼原町で生産されているキジ肉の加工品について、安定的な生産体制を確保するとともに町内飲食店での消費の向上を図るとともに、梼原町の特産品として県内外の飲食店や個人への販売拡大、他産地と連携した高知県産キジ肉としての認知度向上の取り組みを行う。	販売額	1,160万円 (R4)	1,935万円	2,655.4 万円	**1　生産体制の確立と生産羽数の向上** ・新規生産者の確保、育成 ・HACCPに添った衛生管理 ・ふ化率向上のため他産地と連携した生産体制の強化 ・デジタル技術、設備の導入等生産羽数の増加 ・家畜保健衛生所からの指導に基づいた感染症対策 **2　販路の開拓･拡大** ・県外飲食店との取引強化に向けた、地産外商公社と連携した営業活動 ・生産羽数に対する販売計画の策定 **3　キジ肉消費向上** ・愛媛県鬼北町、いの町本川地区との連携の検討 ・地元梼原高校との連携 ・イベントへの積極的な出店	**1　生産体制の確立と生産羽数の向上** ・西部家保･畜産試験場による生産指導 （全４回の検卵指導、飼育指導、投薬指導） ・家畜保健衛生所が、鶏舎の衛生面、飼育環境等の状況について問題がないことを確認 **2　販路の開拓･拡大** ・農振6次産業化セミナー受講中 →(株)KIRecubと連携した商品開発等 ・山水館(大阪府高槻市)との取引継続 ・(株)ﾗｯｸﾊﾟｯｸ及びインターコンチネンタル東京ﾍﾞｲと商談(R5) **3　キジ肉消費向上** ・町内イベントへの出店 ・農振6次産業化セミナー受講((株)KIRecubと連携した商品開発等)[再掲] ・R5年度に開発したキジナゲットの販売開始	319万円 (R6.4月～8月) ・R6到達目標達成率：39.6% ・対前年同期比：121.1%	**D**	**(成果)** ・ふ化率が前年度比20%向上 ・県外のホテル･レストランとの商談によりキジ肉を使った料理の提供開始 ((株)ﾗｯｸﾊﾟｯｸ：R6.5～) (インターコンチネンタル東京ﾍﾞｲ：R6.7～) ・新作キジナゲットを本格的に販売開始：R6.7～ **(課題)** ・飼育羽数が増えたことによる育成率の低下 R5：82.2%　→　R6：81.3%(7月中旬時点) ・都内の店舗では、キジ肉自体が低認知 **(今後の方向性)** ・死亡羽数日報等の家畜保健衛生所への共有 ・早期の投薬、感染症予防 ・キジ肉の認知度向上への取り組み ・既存取引先への継続営業 ・新たな販路開拓(居酒屋) ・ブランディングの再検討
農業	3	**四万十流域資源のブランド力を活かした地域の活性化** (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十の栗再生プロジェクト推進協議会 ・◎(株)四万十ﾄﾞﾗﾏ ・四万十町 四万十川流域の資源を活かして流域の生産者と加工事業者が連携して、6次産業化の取り組みを拡大することで、農業者の所得向上と雇用の創出を図り、中山間地域の活性化目指す。	JA栗集荷量 (大正、十和、西土佐)	26.6t (R4)	28t	30t	**1　生産量の増大** ・しまんと流域農業organicプロジェクトの推進(地域の農業法人との連携による栗･芋等の栽培拡大) ・しまんと地栗植樹プロジェクト(農業部門の立ち上げ)	**1　生産量の増大** ・しまんと流域農業organicプロジェクトの推進 →・(株)しまんと流域野菜による栗･芋･カボチャの作付(栽培期間中農薬不使用) ・四万十の芋プロジェクト協議会での栽培技術等の支援及び仕入れ･販売方針等の共有 現地研修会(4/26),総会(6/27)、目慣し会(10/11) ・(株)四万十ﾄﾞﾗﾏ農業部門での栗の栽培を開始	ー ※9月上旬から受込開始	ー	**(成果)** ・(株)四万十ﾄﾞﾗﾏ農業部門立ち上げと栗の新植：0.8ha **(課題)** ・新植した栗の鳥獣被害(約0.4ha)への対策 ・天候不順による栗の収穫見込量の減少と原材料の確保 **(今後の方向性)** ・鳥獣対策や栽培方法について地元生産者等から指導を受ける。 →防護柵の設置、栗の剪定等 ・県外産地(熊本県等)と連携し原材料を確保するとともに「国産栗」の商品との差別化により「四万十栗」の希少性を高める。
			芋生産量 (四万十の芋プロジェクト協議会)	44t (R4)	50t	70t			ー ※11月上旬から出荷開始	ー	
			(株)四万十ﾄﾞﾗﾏ新規雇用者数	ー	5人	10人 (R6～9累計)	**2　人材育成** ・四万十の人々の日々の営みから学ぶ「しまんと分校」と連携した研修プログラムの実施 **3　施設機械整備とブランド化** ・生産拡大に向けた施設整備の検討（貯蔵庫、冷凍庫、農作物流通センター等） ・加工技術の向上及び繁忙期の平準化による生産性の向上 ・営業体制の強化、イベント企画と連動したギフト商品の展開 ・自社EC販売強化(公式LINEを通じた情報発信やクーポン配布)	**2　人材育成** ・「しまんと分校」研修･宿泊施設完成（R6年8月末、開校はR7年4月予定） ・「しまんと分校」開校に向けたモニターツアーの開催 →雑草ゼミ(4/11～4/12)：4名、茶ゼミ(5/9～5/10)：9名、川ゼミ(6/21～6/22)：6名、地紅茶ゼミ(6/28～6/29)：4名、栗ゼミ(9/21～9/22):7名 **3　施設機械整備とブランド化** ・既存の加工場への併設で、地域産品の物販スペース等の増設を検討 ・繁忙期に向けた製造体制見直し →製造商品を冷凍保管(県外)することで、繁忙期に対応 ・営業課の人員拡充：1名 ・県内企業と連携したギフト商品の販売開始 →馬路村のユズグラッセとしまんと紅茶のセット ・公式LINEによる情報発信やクーポンの配布 ・有機紅茶の量産化及び紅茶祭り開催に向けた取り組み(産振アドバイザー制度の活用) 遅れ芽での紅茶製造、冷凍茶葉の製茶の検討 →約20kgの紅茶製造	1人（営業課） (R6.4月～9月) ・R6到達目標達成率：20.0% ・対前年同期比：-%	**D**	**(成果)** ・【雇用創出数】１人(R6.9月時点) ・製造体制の見直しによる労働生産性の向上 **(課題)** ・「しまんと分校」の来年度開校に向けた運営体制づくり **(今後の方向性)** ・「しまんと分校」のモニターツアー開催を通じて、体験プログラムのブラッシュアップとともにスタッフの資質向上と講師(地域の生産者)との連携強化による運営体制の充実を図る。 ・販売計画の精度の向上と製造体制の見直しを継続し、繁忙期に向けてより生産性を高めていく。
			(株)四万十ﾄﾞﾗﾏ加工品販売額	3.4億円 (R4)	4億円	５億円			1.93億円 (R6.4月～7月) ・R6到達目標達成率：145.0% ・対前年同期比：153.2%	**S**	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
農業	4	**四万十町畑作振興プロジェクト** (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十野菜(同) ・(株)ハマヤ 有機栽培や特別栽培等の野菜・米を栽培する農業者と連携して、外商活動等を強化し野菜の産地化を進める。また、地域の食材を使用した加工品の製造・販売により地域の農業者の所得向上を目指す。	四万十野菜 (同)売上高	1.16億円	1.17億円	1.23億円	**1 農業者連携の拡大・強化** ・栽培技術現地検討会(圃場ｸﾘﾆｯｸ)・勉強会の実施 ・新規有機農業者との連携、就農希望者の研修受入れ ・有機栽培における水稲と野菜による輪作の実践 ・有機米専用施設・機械導入の検討 ・有機農産物等にかかる外商活動の強化、輸送システムの検討 **2 ６次産業化の推進** ・商談会等への参加による販売拡大 ・輸出を視野に入れた体制整備 ・ﾏｰｹｯﾄｲﾝによる新商品開発と既存商品のﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟ	**1 農業者連携の拡大・強化** ・有機農業者４名のほか町内外のこだわり野菜(特栽)の生産者22名で出荷 ・自社の有機野菜栽培(ｼｮｳｶﾞ・里芋・サツマイモ・ソラマメ・ゴボウ)を作付 ・有機農産物(野菜・米)の外商拡大のため、営業活動の実施や機器購入を計画中 ・関西量販店との里芋取引(1tまで)を再開 **2 ６次産業化の推進** ・県外ﾚｽﾄﾗﾝ等にTOSA七味のｻﾝﾌﾟﾙ提供 ・有機冷蔵おろし生姜の商品化に向けて取引価格の交渉中 ・ｺｰﾃﾞｨｱﾙ(※)の機能性表示を検討中 ※四万十町産の有機新生姜をﾒｲﾝ材料とし、精製された砂糖を使用しない自然派のｼﾛｯﾌﾟであり、ｼﾝﾌﾟﾙで応用力のある多用途の商品として開発	0.46億円 (R6.4月～8月) ・R6到達目標達成率：94.4% ・対前年同期比：110.2%	**B**	**(成果)** ・積極的な外商活動等により、販売額は増加している。 **(課題)** ・天候不順により、作付けが例年よりもやや遅れたことから生育への影響が懸念 **(今後の方向性)** ・作付けが遅れたものについては、生育状況を確認しながら、十分な生育を確保したうえで収穫する。 ・栽培継続及び営業活動等によりさらなる販売拡大に努める。
農業	5	**四万十町ポークのブランド化の推進** (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十ポークブランド推進協議会 ・(農)平野協同畜産 ・(有)渡辺畜産 ・(株)山中畜産 ・(農)四国デュロックﾌｧｰﾑ 安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制のもと、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値と収益性の向上を目指す。	四万十ポーク 売上高	10.4億円 (R4)	13億円	15.2億円	**1 ブランド化の推進** ・ｲﾍﾞﾝﾄ参加やPRｷｬﾝﾍﾟｰﾝ等による四万十ポークの認知度の向上 ・地域団体商標取得に向けた体制等の検討及び課題整理 **2 商品開発と販路拡大** ・新商品の開発、催事・商談会等への参加による販路拡大 **3 生産基盤の強化** ・(株)山中畜産施設整備	**1 ブランド化の推進** ・町内飲食店との連携強化のためのﾘｰﾌﾚｯﾄの増刷 ・とさのさとイベントに出店(7/6) ・四万十ポークブランド推進協議会の総会(5/27) **2 商品開発と販路拡大** ・商品開発中：3点（R5商品づくりﾜｰｷﾝｸﾞにて企画） ・商談会等で外販に向けて必要な情報を収集 **3 生産基盤の強化** ・施設整備に向け、産振補助金の事業計画書を提出 →審査会(7/18)、事業採択(8/15) ・畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業(施設整備事業)の実施計画書申請予定 ・飼養衛生管理及び疾病対策を改善 ・(有)渡辺畜産の肥育豚の出荷再開(6月～)	6.3億円 (R6.4月～9月) ・R6到達目標達成率：96.9% ・対前年同期比：116.6%	**B**	**(成果)** ・ｲﾍﾞﾝﾄを通じて四万十ポークのPRを行えた。 （豚串200本、ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ250本を販売） ・四万十ポーク取扱店舗にのぼりを設置してもらうことで、PRにつながった。 **(課題)** ・県内での四万十ポークのさらなる認知度向上 ・伝染性疾病の低減 **(今後の方向性)** ・県内ｲﾍﾞﾝﾄでの四万十ポークの販売、PRの実績を積み重ねる。 ・講習会や文書・チラシの配布等により、疾病に応じた飼養衛生管理の再確認を行う。 ・衛生環境を整備し、事故率の抑制と生産頭数の増加をめざす。
			年間出荷頭数	25,332頭 (R4)	33,122頭	38,896頭			11,988頭 (R6.4月～9月) ・R6到達目標達成率：72.4% ・対前年同期比：ー	**C**	
			四万十ポーク 取扱店舗数	2軒 (R4)	25軒	40軒 （R6～9累計）			25軒 (R6.4月～9月) ・R6到達目標達成率：100.0% ・対前年同期比：ー	**A**	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
林業	6	**梼原100年の森林･人づくりプロジェクト　～森と水の文化を紡ぐ～** (梼原町) ･◎梼原町 ･梼原町森林組合 ･ゆすはらペレット(株) ･ゆすはらエネルギー(株) 梼原町の根幹をなす『森林と水の文化』は、森林と水によって形成されてきた「産業の発展」と、森林と水に留意しながらすすめられる「自然環境の保全」･「生活環境の整備」、心豊かな町民の生活の中から生まれる「人･食･自然･伝統･文化」である。 この伝統を将来にわたって生かしながら、新たな『森林と水の文化』を形成するため、森林の有する機能の高度発揮に取り組み、地域内経済の循環、林業経営のイノベーション、地域人材を育む力を醸成し、町有林の伐採から再造林の実現、再生可能エネルギーの地産地消化に取り組む。	林業の新規就業者数	6人 （R4）	３人	16人 （R6～9 累計）	**1　森林資源の循環利用** ･森林由来の商品開発 ･木質ペレットの増産 ･環境先進企業に対する「梼原町の森林と水の文化」の理解促進 ･環境先進企業･高校生･地域おこし協力隊の協働事業の実施 **2　森林と関わる新たな人づくり** ･地域おこし協力隊の確保･育成 ･退任後の収入確保に向けた森林サービス産業創出の促進 ･半林半Xといった働き方の提案 ･町有林(分収林含む)を主体とした安定的な事業量の確保	**1　森林資源の循環利用** ･高知県地域林業総合支援事業費補助金の活用によるレーザー加工機の導入のHPのPR動画の作成 ･木工加工品等の開発 ･森林経営管理制度に係る森林所有者への皆伐等の意向調査の実施準備 **2　森林と関わる新たな人づくり** ･地域おこし協力隊の募集(R6.4～) ･木工加工品等の開発(再掲) ･森林経営管理制度に係る森林所有者への皆伐等の意向調査の実施準備(再掲) ･地域おこし協力隊出身者による(株)KIRecub設立(R6.8)	0人 (R6.4月～9月) ･R6到達目標達成率：0.0% ･対前年同期比：0.0%	**D**	**(成果)** ･ブランド名「mori wo aruku」で木工加工品5品、アロマオイル1品を商品化 **(課題)** ･コロナ禍では「自然の中で仕事がしたい」という理由で地域おこし協力隊への問い合わせが多くあったが、現在は、ほぼ問い合わせがない状況 ･木質ペレットはボイラーを設置している施設から受注が減少し、R5年度の在庫分が残っているため、R6年度の生産を控えている状況 **(今後の方向性)** ･地域おこし協力隊の募集方法について、「林業」から「木工加工品やアロマオイルの製造」といった形でアプローチ(情報発信)していく方向 ･安定的な供給先の確保のため、木質バイオマス発電所の整備、ペレット工場の増築を予定 ･２－四半期以降に町有地で10ha再造林を実施(森林組合が中心となって実施) ･木工品等は、町内の販売施設やイベントでの販売促進、ネット販売の検討
			町実施の再造林面積	2.08ha （R4）	10ha	30ha			0ha (R6.4月～9月) ･R6到達目標達成率：0.0% ･対前年同期比：0.0%	**D**	
			森林由来の新商品開発（もの･サービス）	ー	１品	4品 （R6～9 累計）			6品 (R6.4月～9月) ･R6到達目標達成率：600.0%	**S**	
			木質ペレット生産量	1,446t （R4）	1,400t	2,300t			308t (R6.4月～9月) ･R6到達目標達成率：44.0% ･対前年同期比：42.0%	**D**	
			太郎川公園の利用者数	8,083人 （R4）	15,000人	30,000人	**3　交流人口の拡大** ･次世代への森林環境教育の実施 ･体験型のイベントやシンポジウムの開催 ･観光協会など関係機関と連携強化	**3　交流人口の拡大** ･環境先進企業等との植樹イベントと交流会の開催(4/29) ･森林フェスティバル(チェーンソーによる伐倒作業のVR体験、木のおもちゃづくり等)の開催(5/26)	5,655人 (R6.4月～8月) ･R6到達目標達成率：90.5% ･対前年同期比：103.2%	**B**	**(成果)** ･植樹イベントへ参加者：126名 ･森林フェスティバル参加者：300人(親子がメイン) **(課題)** ･さらなる交流人口の拡大 **(今後の方向性)** ･イベント等を通じて交流人口拡大を図っていく。

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
水産業	7	**須崎市産養殖マダイ等の販路拡大** (須崎市) 【実施主体】 ・◎(株)小島水産 ・◎乙女会 ・高知県漁協深浦支所 養殖魚(マダイ)生産者グループと養殖業に関連した民間企業、漁協と連携し、他産地の生産動向や県外大手出荷業者の販売戦略に左右されにくい販売力(自社価格の設定、加工による付加価値の向上、取引量の拡大等)を構築し、養殖業の振興を図る。	乙女鯛 売上高 会計年度： 10月～9月 ※R5.10から 1月末決算に 変更	189,500 千円 (R4)	105,280 千円	200,000 千円	**1　品質の維持･向上と生産量の確保** ・生産者の乙女会への新規加入の促進 **2　販路の開拓･拡大** ・県内外商談会への出展 ・ふるさと納税返礼品の取り扱いの拡大 ・個別の商談等による販路の拡大 **3　加工体制の強化･新商品の開発** ・安定的な加工体制の確保 ・新商品の開発	**1　品質の維持･向上と生産量の確保** ・飼料仕入れ価格の値上がり分に対して生産者への販売価格の値上げ幅を低く調整し、生産者の経営を下支え →生産者数の維持 **2　販路の開拓･拡大** ・県内外商談会への出展：0回 (商談会等への参加は、関東方面については、主要取引先の範疇とバッティングするため、商慣習に基づき控えている状況) ・販売体制を強化するため、自社ECサイトの立ち上げを準備 ・個別商談：1件 →飲食店等を営む大阪の企業1社と取引開始 **3　加工体制の強化･新商品の開発** ・新たに商品化を検討している藻焼きたたきについては、加工機器が高額なため、当初はOEMでの生産を検討 ・新商品の開発に向けた社内コンペを実施 →藻焼きたたきの他、複数のアイデアについて商品化を検討	37,156千円 (R6.2月～6月) ・R6到達目標達成率：84.7% ・対前年同期比：106.3%	C	**(成果)** ・生産者数を維持することで、必要な生産量を確保 ・個別商談の実施により、飲食店等を営む大阪の企業と6月から新規取引開始 (乙女鯛2,400尾/月を販売　8月は高水温の影響を避け休止し、その後は一定量を継続販売) **(課題)** ・今後、高齢化による生産者数の減少が懸念 ・さらなる販路の開拓･拡大 ・新商品の開発 **(今後の方向性)** ・担い手の確保に向けた地元の調整等、取り組みへの支援 ・生産者の経営基盤を強化するため、アサリ等との複合養殖の導入を検討 ・大阪･名古屋方面での販路の開拓･拡大 ・新たな高付加価値商品の開発等、加工販売事業のさらなる強化 ・生産者の基盤を強化するため、アサリ等の複合養殖の導入を検討中
水産業	8	**ゆすはらアメゴの生産･販売促進** (梼原町) 【実施主体】 ・◎集落活動センター「おちめん」 ・梼原町 梼原町の伝統産業であるアメゴ養殖事業を持続発展させるため、担い手の確保と育成、デジタル技術を導入した最適な養殖環境の構築による安定生産と販売拡大を図る。	売上高	376万円 (R5見込)	483万円	1,626万円	**1　生産体制の確立･強化** ・新たな専任従事者の確保 ・デジタル化により取得したデータを活用した養殖事業の効率化に向けた取り組み ・販売･収支計画の見直し **2　販路拡大** ・「ゆすはらアメゴ」としてのブランディングについて、産振アドバイザー制度を活用したマーケティング戦略の策定を検討 ・HPやSNS等による広報活動 ・「遊友館」等を活用したアメゴ関連イベントの開催 ・県内企業とのコラボ商品の開発･販売 ・PRや営業活動による販路の開拓･拡大	**1　生産体制の確立･強化** ・アメゴ養殖に関わる人材を募集(R6.4～) ・デジタル技術を活用した監視カメラによる害獣等の施設侵入の探知やIPカメラ･温度計設置による生態調査を実施中 **2　販路拡大** ・県内宿泊事業者への営業活動(城西館、三翠園、ヴィラサントリーニいはらシェフ)(R6.4～) ・「雲の上ストア」への掲載(R6.7～) ・津野山畜産公社と連携した県庁内販売の実施 ・県内量販店等と取引に向け交渉中 ・食品検査センターへ成分分析依頼	ー ※R6は、放流事業がメインのため、10月の放流終了後に記載	ー	**(成果)** ・デジタル技術の活用により、養殖現場の確認がスマホで可能となり、省力化が図られた。 **(課題)** ・冷凍アメゴの一般家庭での調理方法の提案 ・ふるさと納税返礼品の提案及び販路開拓に向けた準備 **(今後の方向性)** ・冷凍アメゴの一般家庭での調理方法を周知するため動画やレシピをHPに掲載 ・ふるさと納税返礼品の開発 ・R7年度の本格的な販売に向けた販路開拓(営業活動) ・アメゴ養殖に関わる人材の継続募集

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
商工業	9	**「鰹乃國水産」ブランドの創出・販売促進** (中土佐町) 【実施主体】 ・◎企画・ど久礼もん企業組合 ・中土佐町 中土佐町の特産品であるカツオについて、冷凍カツオの価値を高め供給体制を構築し販売拡大することで、地元のカツオの一本釣りの文化や風土を含めたブランド化を図り漁業の活性化を目指す。	売上高	3,072万円 （R4）	4,400万円	5,900万円	**1　安定的な生産体制の構築** ・冷凍カツオの製造のための人員確保 ・タタキ製品製造の効率化に向けた施設整備(真空パック等)の検討 **2　販路拡大** ・冷凍カツオを中心とした商品の販路拡大(首都圏・関西圏：イベント出店、商談会参加、営業活動) ・販売力強化に向けたECサイト改修(動線分析) ・ブランドイメージ構築に向けた情報の発信(ブランドサイト作成)	**1　安定的な生産体制の構築** ・冷凍カツオを活用した新商品の試作：2商品(ユッケ丼・漬け丼) →テスト販売：2回 →高知空港においてカツオユッケ丼が定番商品化(R6.7月～) ・真空パックに用いる機器の導入に向けて役場と協議(R7.1月導入予定) **2　販路拡大** ・県外百貨店催事への参加：2回 ・高知空港での中土佐町フェアの開催(R6.4月～6月) ・商談会への参加：4回 ・ECサイトリニューアル(R6.5月～) ・県外催事等での二次元コード(HP・ECサイト・SNS)付きメッセージカードの配布 →動線分析に活用予定 ・パッケージ開発と販売の促進(産振アドバイザー制度の活用)	2,361万円 (R6.4月～9月) ・R6到達目標達成率：107.3% ・対前年同期比：103.0%	**A**	**(成果)** ・新たに開発した２商品のうち１商品(カツオユッケ丼)が定番商品化した。 **(課題)** ・ゴシ(身が固く生臭いため生で食べられないカツオ)を活用した商品の検討 **(今後の方向性)** ・新商品の開発・商品化に向けて、試作・検討を重ねる。 ・産振アドバイザー制度を活用して商品の新パッケージの開発を進める。 ・県外の展示商談会に積極的に参加し、販売拡大を目指す。 ・ECサイトの動線分析に基づき販売方法を検討する。
商工業	10	**道の駅なかとさSEAプロジェクト** (中土佐町) 【実施主体】 ・◎(株)SEAプロジェクト ・中土佐町 「道の駅なかとさ」を拠点に、中土佐町の伝統文化や人をはじめとする地域資源を有効に活用して、中土佐町の魅力向上や町全体の賑わいの創出を図り、所得向上及び雇用の創出等町全体に経済効果を波及させる。	売上高 (施設全体)	3.0億円 （R4）	3.5億円	3.9億円	**1　賑わい創出への展開** ・生産者・事業者への声かけや説明会による新たな出荷者の掘り起こし ・各テナント・生産者との連携によるイベント開催 **2　周辺施設との連携強化** ・観光客周遊促進に向けた情報共有による連携や共同企画の実施 ・広報・PR活動(SNS等含む)による商品・イベント情報発信強化 **3　地産外商の強化** ・ECサイト内容見直し(商品情報の更新・追加、購入しやすいよう操作性を向上)による販売力強化(修正点の洗い出し) ・町内産品を活用した道の駅オリジナル商品による中土佐町の魅力発信 ・外商活動強化による販売拡大（イベント・商談会・催事への参加）	**1　賑わい創出への展開** ・各テナント・生産者と連携したイベントの開催：2回 **2　周辺施設との連携強化** ・かつお祭りとの連携による周遊の促進 ・事業者と連携した外商活動 ・メジカシーズンのオーバーツーリズム対策として、観光協会・大正町市場と連携しITを活用した情報発信を開始(R6.8月～) **3　地産外商の強化** ・道の駅オリジナル商品の開発検討 ・県外イベントへの出品：3回 ・県外商談会への出展：2回 ・県外の道の駅への商品出荷(秋田県・青森県) ・関西圏アンテナショップへの出品	1.04億円 (R6.4月～7月) ・R6到達目標達成率：89.1% ・対前年同期比：84.5%	**B**	**(成果)** ・各テナント・生産者と連携したイベントを開催したことにより、幅広い客層の集客があった。 （スプリングフェア来場者：1,393人、７周年祭来場者：1,429人） **(課題)** ・出荷者の高齢化に伴う出品商品の減少 **(今後の方向性)** ・県外や県内の他地域との連携による商品の充実 ・販売拡大に向けた外商活動の強化 ・ECサイトの充実に向けた内容検討(商品数の増加や値段設定の見直し)

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
商工業	11	**梼原町地産地消･外商の促進** (梼原町) 【実施主体】 ･◎梼原町商工振興協同組合 ･梼原町 ･JA高知県(高西地区) ･町内事業者 ･生産団体 生産者の確保や新商品の開発等により、雲の上商品のブランド化等地場産品の商品力を強化するとともに、多くの人が訪れ魅力的に感じられる新たな道の駅を整備し、地産地消･外商を一層推進する。	直販所等の販売額	4,832万円 (R4)	5,866万円	1億円	**1　地場産品の販売促進** ･運営主体、運営手法の検討選定 ･新しい道の駅で販売する商品の検討選定 ･人材確保、専門家派遣による従業員の意識改革 ･専門家を導入した売り場づくりの検討 **2　地場産品の商品力向上** ･6次産業化セミナーへの参加、既存の町内地場産品の掘り起こし ･「雲の上ブランド」商品のブラッシュアップと新たなPB商品の検討開発 ･道の駅にて販売するテイクアウト商品の検討開発 ･産振アドバイザー制度の活用の検討 ･道の駅登録者(商品を卸している生産者)訪問と、新規登録者の開拓 ･商品パッケージの検討 ･食品表示研修等商品の魅力向上に向けた各種研修の受講 ･町外への積極的な販促活動による認知度向上	**1　地場産品の販売促進** ･定例会議「雲まち会」(月1回)による打合せ ･先進地視察(山形県庄内町) ･ECサイトの更新(アメゴページの追加) ･「雲の上の七夕まつり」開催(7/6) ･集出荷実証事業(5月～) ･ライダーズイン雲の上において特産品販売開始(5月～) ･四国カルスト産ゆすはら牛の販促活動(5月こうち春花まつり出店、6月安芸地域販売、愛媛高知県人会出品、愛媛県砥部焼まつり出店、7月雲の上の七夕まつり出店、高知県庁･須崎地域販売、(株)ケンジン50周年祝賀会出品、8月高知ユナイテッド試合出店、9月ザマナビレッジ出店、肉食麦飲出店) **2　地場産品の商品力向上** ･6次産業化セミナー実践コースへの参加：(株)四万川 ･6次産業化セミナーグレードアップコースへの参加：すまいる ･ECサイトの更新(アメゴページの追加)[再掲]	2,418万円 (R6.4月～8月) ･R6到達目標達成率：98.9% ･対前年同期比：99.9%	**B**	**(成果)** ･四国カルスト産ゆすはら牛の積極的な販売活動による大幅な売上増 R5：91千円　→　R6：1,113千円(7月末時点) **(課題)** ･雲の上の市場の売上げ低下(魅力ある商品の開発が必要) **(今後の方向性)** ･梼原町の特産品開発の検討 ･ふるさと納税返礼品の開発
商工業	12	**梼原町産の桜を活用した加工品等の生産･販売拡大** (梼原町) 【実施主体】 ･◎(株)SAKURA club 梼原町産の桜等を活用して、商品の開発･加工･販売に取組み、「梼原町産桜商品」の知名度のさらなる向上を目指すと共に、地域での雇用の創出を目指す。	売上高	230万円 (R4)	300万円	1,000万円	**1　新事業の展開** ･原材料の安定的な確保に向け県内事業者や県関係機関と桜産地化の検討 ･衛生管理に対応した加工場の整備に向けた取り組み **2　既存商品の販路拡大** ･消費者ニーズを把握した商品開発 ･県外商談会への参加等の営業活動 ･海外販路への展開を検討 **3　生産体制の強化** ･経営体制の強化のための雇用 ･繁忙期における継続的なパート人材の確保	**1　新事業の展開** ･加工場の整備(R6.3) →新商品の試作 ･高知県地産外商公社のアドバイザー制度の採択を受け、県外有名シェフ監修の新商品を開発中(レモンの搾りカスを活用) **2　既存商品の販路拡大** ･道の駅とおわにて商談会出展(6/25) ･資金集めのため高知銀行が行うクラウドファンディングに参加 ･R5年度にデザインをした自社ロゴを用いたグッズを展開 **3　生産体制の強化** ･従業員(常勤)の募集(R6.4～)	171万円 (R6.4月～8月) ･R6到達目標達成率：136.8% ･対前年同期比：161.5%	**S**	**(成果)** ･加工場が整備され作業導線が確保できたため、作業効率が上がった。 **(課題)** ･従業員(常勤)の雇用 ･今年の桜の収穫期に収穫メンバーが不足していたことから、原材料不足が発生 **(今後の方向性)** ･R7年度より従業員(常勤)を雇用 ･高知県林業振興課による特用林産の商談会へ商品を出品 ･観光協会、町内事業者と連携した梼原町産桜の商標登録の検討

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
商工業	13	**津野町地産地消･外商推進プロジェクト** (津野町) 【実施主体】 ･◎津野町 ･(有)津野町ふるさとセンター ･(株)満天の星 ･JA高知県(高西地区) 町内の生産者や事業者、観光施設等が連携し、生産･流通･販売を一体的に進めるとともに、新商品開発や販売･PRを通じて道の駅やアンテナショップ等における地場産品の地産地消･外商を推進する。併せて、つの茶ブランドの推進やティーツーリズムの取り組みによる茶製品の販売促進と中山間地域における茶園の景観維持を目指す。	主要２社の総売上高	3.70億円 (R4)	4.18億円	4.46億円	**1　アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につなげる商品づくりの推進** ･アンテナショップ「満天の星」リニューアルに向けた財源検討 ･アンテナショップ「満天の星」の運営協議	**1　アンテナショップの魅力向上と外商の拡大につなげる商品づくりの推進** ･デジタル田園都市国家構想交付金の活用に向けた、地域再生計画の作成	0.98億円 (R6.4月～6月) ･R6到達目標達成率：93.8% ･対前年同期比：95.1%	**B**	**(成果)** ･財源の確保に向けて地方再生計画を作成 **(課題)** ･アンテナショップ「満天の星」リニューアルに向けた検討(デジタル田園都市国家構想交付金のR7当初予算の活用等、財源の確保が必要) **(今後の方向性)** ･アンテナショップ「満天の星」リニューアルのスケジュールの整理等
			直販所 総販売額	1.33億円 (R4)	1.36億円	1.40億円	**2　出荷量の確保と地産地消の推進** ･津野町直販所営農コーディネーターによる生産者指導 ･食品衛生法改正による漬物業者への事業継続支援 ･ティーバッグ加工機の導入協議 ･直販所定例会の実施	**2　出荷量の確保と地産地消の推進** ･(有)津野町ふるさとセンター加工場にティーバッグ加工機、粉砕機、自動計量器を導入(高知県土佐茶生産強化事業費補助金(品質向上)) →つの茶や直販所に出荷される野草茶のティーバッグ化を行える環境を整備(R7.2整備完了予定)	0.63億円 (R6.4月～9月) ･R6到達目標達成率：92.6% ･対前年同期比：92.1%	**B**	**(成果)** ･商品の付加価値向上及び直販商品数の増加に向け、つの茶やつの茶のティーバッグ化を行える施設整備を実施(R7.2整備完了予定) **(課題)** ･ティーバック用加工茶葉の確保 **(今後の方向性)** ･茶生産者に対しティーバッグ加工用茶葉の提供を促す
			茶製品 販売額	3,936万円 (R4)	4,130万円	4,400万円	**3 「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大** ･イベントや商談会でのつの茶PR ･つの茶を活用した新商品の開発 ･つの茶振興協議会総会･分科会の実施	**3 「つの茶」ブランドの推進による茶製品の販売拡大** ･イベントや商談会への参加：5回 →新規取引先：1件(R6.7時点) ･つの茶を使った新商品の誕生：2箇所 (カルストテラス、道の駅布施ヶ坂) →4品(かぶせ茶ラテ、黒糖ほうじ茶ラテ、グリーンティー、かぶせ茶プリン) ･つの茶振興協議会総会の実施：1回 (つの茶のロゴ作成に向けた検討)	780万円 (R6.4月～6月) ･R6到達目標達成率：75.5% ･対前年同期比：85.8%	**C**	**(成果)** ･新たな商品の誕生により町内でつの茶を提供できるようになった。 **(課題)** ･新商品のPR **(今後の方向性)** ･SNS等を活用した新商品を含む情報発信の強化

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
商工業	14	**道の駅「あぐり窪川」の機能強化と地域の活性化** (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十町 ・(株)あぐり窪川 道の駅兼地場産業振興センターであるあぐり窪川を拠点とし、地域の特産品の直販やレストランでの提供、観光情報の発信、地域資源を活用した加工品の開発と販売により、地場産業の振興と地域活性化を目指す。	売上高	3.15億円 (R4)	3.74億円	4.41億円	**1　物販・レストランの強化** ・物販・直販所の魅力向上に向けた商品や売り場の見直し、出品者の新規獲得等 ・土産物コーナーと直販所の一元化に向けた検討 ・レストランの提供方法やメニューの見直し及び受入態勢の強化とサービスの向上 **2　商品開発・販路拡大** ・新商品の開発、新たな地域資源の掘り起こし ・営業活動の強化 **3　情報発信機能の強化** ・SNSを活用した情報発信 ・情報発信のための社内体制構築	**1　物販・レストランの強化** ・物販、レストランの見直しの検討(町の人材育成アドバイザーの活用) ➔レストランの運用体制の見直し(セルフサービスからフルサービスに回帰) →新商品の提供開始(ハンバーグ) →物販の見直し：大正・十和の道の駅との３駅連携コーナー設置 **2　商品開発・販路拡大** ・新商品開発及び外商の取り組み(産振アドバイザー(課題一貫型)制度の活用) →・新製品の開発と既存商品の改良のポイントについてアドバイを受け、社内会議にて定期的に試食会を実施 ・既存の豚まんより小さいサイズの商品を試作 ・販路拡大のため、大量生産できる丸型餃子を製造、販売(9月下旬～) ・商談会への参加：6回 ・新規取引先の獲得に向けた営業活動の強化 **3　情報発信機能の強化** ・職員のSNS運用研修への参加及びインスタグラムでのリアルタイムの情報発信	0.88億円 (R6.4月～8月) ・R6到達目標達成率：56.5% ・対前年同期比：70.3%	**D**	**(成果)** ・レストランで新商品の提供を開始し、レストランの魅力向上につなげた。 ・新規取引として、コンビニエンスストアでの販売が開始した。(豚まん(1個入り)) **(課題)** ・利用客の減少 ・豚まんの販売拡大 ・各種SNSの有効活用 **(今後の方向性)** ・レストラン及び物販の魅力向上 ・旅行会社と連携した団体客の受入強化 ・新商品の開発 ・小型豚まんのパッケージや販売戦略の検討 ・SNSを活用した情報発信の強化
商工業	15	**四万十町生姜生産農家と連携した集出荷体制の整備と販売拡大** (四万十町) 【実施主体】 ・◎RELA GREEN VILLAGE(株) 生姜の生産者かつ集出荷者としての経験を生かし、病害発生により早期収穫した生姜の受入・加工・販売に取り組む。それらの販路開拓や新規事業の実施により、四万十町産をはじめとした近隣地域の生姜の知名度向上を狙う。 また、町内の生姜農家や企業等と連携し、減農薬栽培に向けた取り組みを進めることで、地域の生姜農家の所得安定・向上や雇用の創出を目指す。	売上高 会計年度： 9月～8月	962万円 (R4)	630万円	1,480万円	**1　施設整備** ・加工施設整備の計画策定 **2　商品開発、販売促進** ・新商品の開発 ・減農薬等こだわりの原材料の栽培、SDGsを意識した栽培方法の検討	**1　施設整備** ・加工施設整備に向けての再検討 （効率化及び自然環境への負荷軽減） **2　商品開発、販売促進** ・町のふるさと納税を活用した商品の販売：１商品 新たに申請中の商品：１商品 ・生姜栽培について、四万十川の水質への影響を抑える排水方法の検討 →日米共同の水質研究グループの視察受入れ(8/31)	ー ※8月以降に収穫	ー	**(成果)** ・各従業員が希望する時間での出勤を可能とすることで、働きやすい体制づくりの構築を行った。 **(課題)** ・加工施設の整備における環境負荷の低減 **(今後の方向性)** ・加工施設整備の計画見直し ・環境循環型の加工事業についての情報収集 ・ドローン等、機械の活用による若者の呼び込み

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　 70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　 70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
観光	16	**高幡地域における広域観光の推進** (高幡地域全域) 【実施主体】 ・◎(一社)奥四万十高知 ・須崎市 ・中土佐町 ・梼原町 ・津野町 ・四万十町 (一社)奥四万十高知を中心に高幡地域内の観光、自然、食、人等の観光資源を組み合わせて新たな商品を造成するとともに、高幡地域ならではの魅力を情報発信し、セールス活動を行うことでエリアの知名度向上や誘客を促進し、地域経済の波及効果につなげていく。	主要観光施設入込数	2,081,383人 (R4)	2,056,110人	2,646,000人	**1　観光情報の発信** ・関西及びインバウンド向けのプロモーション ・HP、SNS等による情報発信 **2　地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売** ・県キャンペーンや旅行トレンドに合わせた商品の造成、販売 ・着地型商品(ツアー・体験)の造成・販売強化 ・HPを通じた観光商品の販売 ・域内周遊企画の実施による周遊促進 **3　広域観光組織の機能強化** ・各種イベントへの出展によるPR活動 ・クルーズ船向けオプショナルツアーの企画提案 ・デジタルを活用したデータ分析、マーケティング ・教育旅行受入準備 ・体験事業者やガイド等の観光人材の育成	**1　観光情報の発信** ・県と連携したインバウンド富裕層向けプレミアムコンテンツ造成 (9月～) ・HP、SNS(インスタグラム)等による域内イベント等の情報発信 ・アクティビティ施設の動画作成による情報発信 **2　地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売** ・自然・体験型アドバイザー派遣による商品の磨き上げ ・募集ツアー販売回数:1商品・2本 「夏の四国カルスト天狗高原とゆすはら建築・歴史まちあるき」 →催行:1商品・1本(29名参加) ・農泊・食文化海外発信地域「SAVOR JAPAN」への取り組み →申請期間内での申請に間に合わず、来年度の申請を検討 **3　広域観光組織の機能強化** (1)　旅行客誘致に向けたセールス活動 ・台湾の旅行会社向けファムトリップを開催 (R6.11.13～R6.11.16予定) ・九州からの誘客を狙った大分県へのセールスキャラバンを実施予定 (2)旅行客受入体制基盤・マーケティング機能の強化 ・閑散期の対策として行うスタンプラリーに合わせて、宿泊施設の利用促進につなげるため、OTA活用を呼びかけ、効果検証の実証事業に取り組み中(デジタルデータ活用事業、R6.12.2～R7.2.3実施予定) ・貸切バス助成金交付制度(奥四万十高知助成金)の実施 →予算100万円の内、91万円の申請受付 ・民泊先進地である徳島県そらの郷および受入地域を視察 (R6.11.15～R6.11.16予定)	706,858人 (R6.4月～7月) ・R6到達目標達成率:103.1% ・対前年同期比:93.6%	**A**	**(成果)** ・全国旅行支援があった昨年に比べ、道の駅を利用する団体ツアーバスが減少。このことから、主要観光施設入込数は、エリア入込数うちシェア約59%(R5年度)を占める主要な道の駅5施設(月平均1万人超の道の駅)で対前年同期比が平均91.0%となり、全体で対前年同期比93.6%となるも、R6到達目標については、期間達成率103.1%と底堅い。 ・団体バスツアーの減少対策として、旅行会社向け貸切バス助成金制度(奥四万十高知助成金)を実施しており、申込み状況は良好。 （実績は10月以降に集計を行う） **(課題)** ・域内観光施設のプロモーション ・県のどっぷりキャンペーンと連動した募集型商品を多数造成していく予定であるが、ツアー内容の磨き上げや催行につなげるPR **(今後の方向性)** ・旅行会社向けファムトリップや県外へのセールスキャラバンの企画等、セールス活動の強化を図る。 ・募集型商品については、自然体験アドバイザー制度を活用し、ツアー内容の組み立てやターゲット設定に助言を得る(全5回)。 ・前年同期比が好調な施設へは個人客が増加していることから、プロモーションの拡充(SNS等)を好調施設に寄せて注力する。
			主要宿泊施設宿泊者数	59,120人 (R4)	59,960人	64,000人			18,189人 (R6.4月～7月) ・R6到達目標達成率:91.0% ・対前年同期比:88.4%	**B**	**(成果)** ・全国旅行支援のあった昨年度と比較すると、主要宿泊施設宿泊者数は域内ほぼ全施設で5、6月に落ち込み、対前年同期比88.4%となった。 **(課題)** ・宿泊施設の利用促進のため、OTA活用等、幅広いチャネルでPRしていく必要があるが、宿泊施設自体が魅力創造し、発信する機会が少ない点が課題となっている。 **(今後の方向性)** ・R5年度に制作した奥四万十PR動画(温泉郷)の活用により、温泉施設のPRを行う。 ・デジタルデータ活用事業により、域内宿泊施設のOTA活用を呼びかけ、各施設の販売チャネルを増やすとともに、奥四万十スタンプラリーの実施による周遊促進を図る。 ・民泊先進地の視察を行い、教育旅行やインバウンド向けに宿泊施設の魅力化の取り組みを学ぶ。 ・宿泊施設の魅力創造への支援や発信機能の向上に向けた取り組みを検討する。

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
観光	17	**須崎市海のまちプロジェクト** (須崎市) 【事業実施主体】 ・◎須崎市 ・須崎市海のまちプロジェクト推進協議会 ・(一社)須崎海のまち公社 須崎駅を含む中心市街地を「海のまち」と定義し、コアゾーンとして整備・活用することにより、地域活性化の拠点づくりを行うとともに、「海のまち」を起点にさまざまな事業と連携することで須崎市を拠点に奥四万十エリア全域まで波及効果を促す仕組みづくりを行う。	主要施設等の入込数	28,089人 (R4)	33,000人	53,000人	**1　海のまち創り・リノベーション** ・宿泊施設等への利活用を目的とした候補物件の選定、設計	**1　海のまち創り・リノベーション** ・R7年度の施設整備に向け準備中 →宿泊施設：吉村旅館、旧岩井レコード(交渉中) →入浴施設：旧錦湯(設計に係る業者の選定中)	21,519人 (R6.4月～R6.9月) ・R6到達目標達成率：130.4% ・対前年同期比：192.4%	**S**	**(成果)** ・海のまちプロジェクトのこれまでの道のりをまとめたテレビ放送等の取り組みにより、プロジェクトの認知度が向上(テレビ放送での視聴率約5%) **(課題)** ・施設運営に必要な人材の確保 **(今後の方向性)** ・地域おこし協力隊の活用の検討 ・外国技能実習生の活用の検討 ・宿泊施設等の設計に向けた検討
							2　海のまちの魅力の向上・再発見 ・アニメクリエーター聖地プロジェクト祭との連携 ・釣りバカ市民大会の開催 ・市民向け釣り教室の検討・開催 ・民間事業者との連携・協力依頼	**2　海のまちの魅力の向上・再発見** ・「高知アニクリ祭2024」開催(R6.4.20、R6.4.21) →来場者数16,700人 ・須崎市を舞台とした長編アニメ映画の制作に向けた検討 ・「すさきがすきさファミリー釣り大会」(R6.10.27へ延期) ・釣り教室企画提案中(R6.8.31、R6.9.1は台風の影響により中止) ・釣りイベント開催にあたり釣り具メーカーの協賛、地元の飲食店との連携(魚捌きへの協力等) ・釣りバカシティプロジェクト関連のPRグッズの検討、製作			**(成果)** ・釣りバカシティプロジェクト関連のノベルティグッズを製作 **(課題)** ・旧須崎高校跡地のアニメイベント等の活用に向けた具体案が決まっていない。 **(今後の方向性)** ・継続してアニメ関係各者との協議を実施 ・釣りバカシティプロジェクトにおけるイベント開催
							3　エリア外との連携促進 ・旅行企画の造成 ・拠点における情報発信の検討、実施	**3　エリア外との連携促進** ・須崎市海のまちプロジェクト推進協議会(R6.7) ((一社)奥四万十高知、(一社)須崎市観光協会参加)			**(成果)** ・海のまちプロジェクトの3年間の実績及び今後の展望を関係者で共有 **(課題)** ・(一社)奥四万十高知との連携強化(旅行企画造成、イベント連携等) **(今後の方向性)** ・情報共有を密にし、定期的なイベントの実施等によるリピーターの確保(食、文化、芸術)

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
観光	18	**浦ノ内マリンパークにおける交流人口の拡大による地域の活性化** (須崎市) 【実施主体】 ・◎須崎市 ・(一社)須崎市観光協会 ・NPO法人すさきスポーツクラブ ・(株)ロゴスコーポレーション ・その他関係事業者等 須崎市海洋スポーツパーク構想による海洋スポーツの振興と海洋レジャー等の体験型観光を推進するとともに、野外体験施設ロゴスパークとの連携による交流人口の拡大を図り地域の活性化を目指す。	主要施設等の入込数	46,507人 (R5見込)	50,000人	63,000人	**1　海洋スポーツの振興** ・カヌー競技大会の開催 ・企業、大学等へのPR活動 ・施設外での魅力向上 ・競技連盟等へのアプローチ(水泳、カヌー)	**1　海洋スポーツの振興** ・ドラゴンカヌー大会募集開始(R6.6.3～R6.6.28) 　→申込数25チーム ・各地カヌー大会会場でのアンケート及び宣伝活動等 ・周遊ルートのモニターツアーの企画提案 　(周遊促進・滞在延長支援事業費補助金) ・代表クラスの合宿実施(カヌー競技) 　→U-18日本代表合宿実施(R6.4.18～R6.4.21) 　→U-23、ジュニア日本代表合宿実施(R6.6.17～R6.6.20)	22,657人 (R6.4月～R6.8月) ・R6到達目標達成率：108.8% ・対前年同期比：97.4%	**A**	**(成果)** ・過去参加チームや女性単独チームへの参加呼びかけによりドラゴンカヌー大会の参加チームが増加した。 　(R5：21チーム→R6：25チーム) **(課題)** ・ドラゴンカヌー大会のさらなる参加チーム増加や合宿等の誘致に向けた取り組みが必要 **(今後の方向性)** ・合宿誘致やイベント開催 ・SNS活用や県のスポーツポータルサイト等と連携した広報活動の促進
							2　体験型観光の推進 ・ファミリー層やこどもへの効果的なアプローチの検討 ・情報発信の充実、マスコミ等を通じたPR ・イベントの開催 　(ロゴスパークフェスタ(スヌーピーコラボ))	**2　体験型観光の推進** ・公園機能の充実させるため、整備を実施 　トイレの新設(R6.4.18) 　日陰確保のビックリリーシェードの設置(R6.7) 　ピアノの設置を検討 ・KUTV「あさコレ！」でロゴスパークを定期的に紹介 ・ロゴスパークフェスタ実施(R6.4.27～R6.4.28) 　→来場者数843人			**(成果)** ・ロゴスパークフェスタ来場者数843人(前年比約3倍) **(課題)** ・前年同期比ロゴスパーク来場者数3割減(全体数) ・BBQに使う地元の食材(業者)の活用が少ない **(今後の方向性)** ・定期的なイベント実施により、集客力の向上を図る 　(ロゴスの宿泊エリアの有効活用) ・須崎市スポーツセンターや地元業者との連携強化
							3　地域活性化向けた連携強化 ・近隣事業者との連携による滞在時間延長に向けた取り組みの検討 ・市内事業者との周遊に向けた取り組みの検討 ・海のまちプロジェクトとの情報共有、連携 ・予約方法の改善検討	**3　地域活性化向けた連携強化** ・周遊ルートのモニターツアーの企画提案(再掲) 　(周遊促進・滞在延長支援事業費補助金) ・周辺飲食店を活用した周遊ルートの作成 ・浦ノ内湾での釣りイベントの企画提案 ・自動予約システムの導入(R6.7.1～) ・モニターツアーを5事業で実証中(R7.2に実証結果集計予定)			**(成果)** ・浦ノ内周辺の観光スポットや飲食店の掘り起こし等、情報整理ができた。 **(課題)** ・合宿や既存のイベント以外の企画立案について、関係者間協議が必要 **(今後の方向性)** ・関係者間協議による体験メニューの企画立案や磨き上げ、民泊事業の検討

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
観光	19	**スケートパークを核とした地域の活性化** (須崎市) 【事業主体】 ・◎須崎市 魅力的な「公共スケートパーク」を整備し、新たなスポーツ分野であるストリートスポーツを通じて、地域の若年層やファミリー層をはじめ、これまで須崎市を訪れることのなかった層に訪れてもらうことにより交流人口の拡大を図るとともに、既存の観光客の滞在時間の延長を図り、地域への経済波及効果を促す。	主要施設等の入込数	ー	ー	27,000人	**1　魅力ある施設の整備に向けた協議等** ・基本・実施設計の契約 ・財源の検討 ・運営体制の検討	**1　魅力ある施設の整備に向けた協議等** ・農地転用等の申請に向けて農業基盤課と協議(R6.5.31) ・設計業者選定の選定(R6.8) ・高知県スポーツ推進交付金の活用についてポーツツーリズム課と協議(R6.10.3)	ー	ー	**(成果)** ・農地転用に向けて、一定の道筋が確認でき申請に向けて各関係者と連携を取りながら進めることができている。 ・スケートパークの全体構想を関係者で共有できた。 **(課題)** ・高知県スポーツ推進交付金活用に向けて県スポーツツーリズム課と調整が必要 **(今後の方向性)** ・関係者との情報共有を密にし、R7年度着工に向け進めていく。
							2　ストリートスポーツを活用した誘客方法の検討 ・施設機能の検討	**2　ストリートスポーツを活用した誘客方法の検討** ・３D図面を活用し、NPO法人日本スケートパーク協会と協議 →全国規模の大会誘致は不可 (スケートの大会は通常、大会毎に会場を設営するため、大会を誘致するためには更地であることが望ましい。)			**(成果)** ・スケートパークの全体構想を関係者で共有できた。(再掲) **(課題)** ・利便性、安全面、工事費、ランニングコスト等などあらゆる視点からの精査が必要 ・完成後の定期的なイベント開催の検討 **(今後の方向性)** ・経済波及効果ツールの活用や、他県の同規模の施設を参考に中長期的な視点での誘客及び費用面等の調査、検討
							3　効果的なプロモーションの検討 ・情報発信方法の検討 ・イベントの可能性についての検討	**3　効果的なプロモーションの検討** ・須崎市議会へ3D図面を用いたスケートパーク整備概要の説明(R6.9.24)			**(成果)** ・スケートパークの全体構想を関係者で共有できた。(再掲) **(課題)** ・スケートパークを活用した効果的なイベントの実施検討 ・須崎市らしさのある親しみやすいネーミングの検討(スケートパーク全体及び各セクションの名称) **(今後の方向性)** ・地元及び市外からの利用者のニーズ調査を基にした魅力的なオープニングイベントの開催を検討 ・施設の名称について、ネーミングライツや公募等の決定方法の検討

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
観光	20	**カツオを起点とした持続可能な観光を主軸とする地域産業の振興** (中土佐町) 【実施主体】 ・◎(一社)なかとさ観光協会 ・中土佐町 ・(株)中土佐町地域振興公社 ・大正町市場協同組合 ・中土佐町商工会 10年後も「土佐久礼かつお」の本場としてカツオを食べにお越しいただける町を目指して、町内関係者が連携してカツオによる観光を推進することでカツオ産業を守り、カツオを起点とした持続可能な観光地域づくりを行う。	観光施設入込数	476,457人 (R4)	490,000人	524,000人	**1　受入態勢の強化** ・観光案内を強化するための拠点整備の検討及び体制強化 ・観光客等の利便性向上(コインロッカー整備等) ・機能強化(観光客おもてなしのための物販機能の検討や商品開発)	**1　受入態勢の強化** ・拠点施設の整備(観光協会の駅舎への移転) →8/30～　工事着工 ～9/10　工事完了 10/18　オープニングセレモニー ・新たな拠点移設について、10/4開催のイベント(どうでしょうキャラバン)と連携	136,757人 (R6.4月～6月) ・R6到達目標達成率：111.6% ・対前年度比：108.6%	**S**	**(成果)** ・高知空港でのイベントや関西圏での出展により、県外の消費者に向けて「土佐久礼かつお」のPRができた。 ・９月に開催される旅行会社向けのリリースの際に提案する商品が造成できた。 **(課題)** ・観光協会の人員体制強化(現在1名) ・ツアー商品としてのスナックや居酒屋等、地元の夜のコンテンツ化 **(今後の方向性)** ・観光協会の人員体制の強化に向けた検討(地域おこし協力隊の活用等) ・拠点施設の機能拡充(喫茶・物販等)に向けた検討 ・ツアー商品化に向けたスナック・居酒屋等、地域の関係者との連携・調整
			黒潮本陣宿泊者数	8,529人※ (R4) ※３ヵ月の休業あり	10,000人	12,000人	**2　土佐久礼かつおのファンづくり** ・関西圏や高知空港等でのイベント・催事による「土佐久礼かつお」のファンづくり(関西圏を中心とした県外でのPR活動) ・インバウンドを意識した観光客向けカツオプロモーション(観光客へのPR) ・カツオ授業の実施(小学生、大人、観光客向け)	**2　土佐久礼かつおのファンづくり** ・関西圏や高知空港でのイベント・催事への参加 空港フェア(タタキオブジェ受渡式)(R6.4月～6月) 阪神梅田本店フードトリップ(R6.6月) ・ガストロノミーツーリズムの多言語化動画全8動画の配信 ・観光列車における台湾観光客向けの鰹フォトブースの設置	4,599人 (R6.4月～9月) ・R6到達目標達成率：92.0% ・対前年同期比：81.4%	**B**	
			タタキ体験受入数	1,512人 (R4)	1,550人	1,800人			625人 (R6.4月～7月) ・R6到達目標達成率：121.0% ・対前年同期比：72.0%	**S**	
			町内事業者へのカツオ販売額	143百万円 (R4)	147百万円	157百万円	**3　観光客の町内周遊促進** ・中土佐町内の観光素材を周遊する観光コースの提案 (土佐久礼駅、久礼大正町市場、道の駅なかとさ、黒潮本陣、久礼八幡宮、双名島、西岡酒造店、美術館、漁業体験等) ・観光客向けのサービス充実(レンタサイクル事業、手荷物預かりサービス) ・中心商店街周辺の駐車場整備(検討)	**3　観光客の町内周遊促進** ・どっぷり高知旅商品造成事業において新たな周遊コースの造成 ・中心商店街周辺の駐車場整備については、検討の結果、警備員の配置などのソフト対策により対応することとなった	63百万円 (R6.4月～7月) ・R6到達目標達成率：128.6% ・対前年同期比：107.6%	**S**	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
観光	21	**椨原町の体験型･滞在型観光の推進** (椨原町) 【実施主体】 ･◎(一社)ゆすはら雲の上観光協会 ･椨原町 ･椨原町商工会 ･松原まろうど会 ･坂本龍馬脱藩の郷　ゆすはらであいの会 椨原町の玄関口である太郎川公園を拠点とし、新たなホテル等の整備と併せて、観光スポットである隈研吾建築群、坂本龍馬脱藩の道や森林セラピーロードなどの滞在型観光や新たな体験プログラムの造成による体験型観光等により、周遊観光や交流人口の拡大を図っていく。	主要宿泊施設宿泊者数	10,335人 (R4)	11,500人	14,000人	**1　体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実** ･体験プログラムの造成 ･運営主体、運営方法の検討 ･施設整備と並行し誘客の方法について検討 ･公園内にアクティビティ施設を整備 ･専門家の導入による地域食材を使ったメニューの開発 ･椨原町産ブドウを使用したワインの活用検討 **2　誘客活動** ･専門家の導入による町内周遊プランの作成 ･(一社)奥四万十高知と連携した観光情報発信 **3　受入基盤の整備** ･町内宿泊事業者の受入体制の整備 ･観光･宿泊拠点施設から町内への波及を目指し町内事業者間の連携を推進	**1　体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入体制の充実** ･観光庁「地域観光新発見事業」申請 ･(株)KIRecubによる植林体験ツアーの造成検討 ･「椨原町の自然環境や歴史、風土を活かした地域活性化に関する包括協定」を締結(R6.7) ･太郎川公園内アクティビティ施設の実施設計について観光振興推進総合支援事業費補助金交付決定(R6.9) 　➔地域おこし協力隊の配置：2名 **2　誘客活動** ･大阪府長居スタジアムイベントにて椨原町産ブドウを使用したワイン販売を通じたPR(R6.5) ･(一社)雲の上観光協会主催の「七夕まつり」の開催(R6.7) 　→集客：約450人 **3　受入基盤の整備** ･運営組織検討委員会の開催（R6.5） ･各区行政懇談会での町内宿泊事業者等への説明会(R6.6) ･町内事業者へのインスタグラム活用講座の開催(R6.7)	6,229人 (R6.4月～8月) ･R6到達目標達成率：130.0% ･対前年同期比：99.8%	**S**	**(成果)** ･観光協会を中心にコンソーシアム(共同事業体)として、太郎川公園再整備の準備を進めていくことが概ね決定 ･受入体制の充実に向け、地域おこし協力隊を観光協会と太郎川公園キャンプ場に1名ずつ配置 **(課題)** ･小さな拠点「道の駅ゆすはら」再実施設計により、完成が遅れる。 **(今後の方向性)** ･「道の駅ゆすはら」を含めた太郎川公園再整備のスケジュールの見直しを検討 ･太郎川公園内の雲の上ギャラリースイートルームを活用した誘客の検討 ･「茅葺き屋根体験プラン」の造成
			主要観光施設入込数	113,131人 (R4)	125,000人	120,000人			64,780人 (R6.4月～8月) ･R6到達目標達成率：124.4% ･対前年同期比：110.6%	**S**	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
観光	22	**津野町まるごと体感！観光推進プロジェクト** (津野町) 【実施主体】 ・◎津野町 四国カルスト天狗高原や四万十川源流点、風の里公園、セラピーロードなどを中心とした観光資源と歴史や伝統文化、地域の食や体験プログラム等津野町をまるごとPRし、年間を通じて多くの観光客の集客を図り、地域経済の波及効果につなげていく。	主要観光施設入込数	414,146人 （R4）	424,500人	456,000人	**1　観光資源を生かした魅力づくりの推進** ・プラネタリウムを活用した集客への取り組み ・四国カルストから麓への波及を促す観光コンテンツの造成 ・津野町版体験博“つのつねづね”の実施 ・VRを活用した新たな体験プログラムを整備 ・四国カルストの星をテーマにしたイベントの開催 **2　観光基盤の整備** ・アウトドアコンテンツの開発・磨き上げや宿泊キャパシティ増に向けた検討 ・津野町観光情報サイトの多言語化の検討 ・インバウンド観光客の受入れ環境整備の推進 ・パンフレットの修正・増刷・多言語化 **3　戦略的な情報発信** ・HPやSNS、マスコミ等を通じた情報発信 ・トゥクトゥクを活用した広報と情報発信 ・星に特化した情報サイトによる情報発信 ・「星」をテーマにしたイベントと謎解き周遊キャンペーンの実施(どっぷり高知旅キャンペーン) ・トゥクトゥクの追加整備 **4　魅力を伝える人材の育成と観光推進体制の構築** ・津野町観光推進会議による事業者間連携強化 ・(一社)奥四万十高知との連携した取り組み ・四国カルスト広域連携推進協議会との連携した取り組み ・観光ガイドの育成	**1　観光資源を生かした魅力づくりの推進** ・星に関する地域おこし協力隊募集 →地域おこし協力隊着任：1名(4/1～) ・津野町植物トレッキング牧野博士が見た不入山の開催(5/31) ・つのつねづね＃5[夏]開催(8/3～9/14) ・五藤光学研究所と連絡運営会議を実施：3回 ・つのフェス2024～紫金山アトラス彗星の輝きを求めて～開催(10/19～27) **2　観光基盤の整備** ・英語版パンフレット「津野ぶらBOOK」及びのぼり旗の配布 →インバウンドへの対応(町内61施設) ・パンフレット「星と大地」の増刷10,000部 **3　戦略的な情報発信** ・観光推進業務の地域おこし協力隊募集(4/17～) ・HPやSNS、マスコミ等を通じた情報発信 →AMラジオ(高知3回)、NHKこうちいちばん、高知龍馬空港看板広告設置 ・トゥクトゥク定期周遊及び高知市内PR運行 →4月：15回、5月：60回、6月：18回 ※観光振興推進総合支援事業費補助金申請中(追加整備) **4　魅力を伝える人材の育成と観光推進体制の構築** ・事業者間連携強化のための津野町観光推進会議の開催(4月) ・(一社)奥四万十高知との協議：３回 ・四国カルスト広域連携推進協議会との協議：6回 →インスタグラムキャンペーン、デジタルサイクリングマップ制作を企画 ・観光ガイド総会実施(6/17) →観光ガイドの育成として、新人ガイド(4名)がベテランガイドのツアーに同行し、OJTで学べる機会を10月以降予定 (観光ガイド全17名) ・星ふるヴィレッジTENGUにて観光案内実施(5/3～5/5) →星ふるヴィレッジTENGUのGW入込：9,579人	202,855人 (R6.4月～8月) ・R6到達目標達成率：114.7% ・対前年同期比：103.7%	**S**	**(成果)** ・「つのつねづね」体験プログラムを造成：10件 ・高知龍馬空港に四国カルストのコルトン看板広告の設置によるPR **(課題)** ・星ふるヴィレッジTENGUの調理人等の人材確保 **(今後の方向性)** ・星ふるヴィレッジTENGUの運営について、人手不足の解消が難しいため関係者で協議を実施(例えば、セントラルキッチンの導入や、星に関する業務を外部団体へ委託する等)
			主要宿泊施設宿泊者数	13,946人 （R4）	14,450人	15,800人			6,223人 (R6.4月～8月) ・R6到達目標達成率：103.4% ・対前年同期比：86.1%	**A**	
			観光消費額	338,000 千円 （R4）	356,800 千円	385,000 千円			151,182千円 (R6.4月～8月) ・R6到達目標達成率：101.7% ・対前年同期比：86.1%	**A**	

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
観光	23	**わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり** (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十町 ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 四万十町の観光拠点として「海洋堂ホビー館四万十」のブラッシュアップを図るとともに、四万十川流域の豊かな自然や食、伝統文化など四万十町の魅力ある資源を組み合わせ、周遊促進やインバウンドの誘致など、地域と連携を強化して交流人口の拡大を図る。	ホビー館年間入場客数	2.7万人 (R4)	3万人	5万人	**1　ミュージアム機能の強化** ・企画展やイベント等の開催 ・予土線を活用した集客とPR ・オリジナルキャラクター(うまのすけっぴ等)を活用した広報 ・SNS等を通じた情報発信の強化 ・食事提供システムの検討・導入 **2　関係機関と連携した集客力の向上** ・滞在時間の延長を促す仕組みづくり ・南国市等との周遊企画の展開 ・地域等との連携(観光協会、(一社)奥四万十高知、大正地域観光推進協議会等)	**1　ミュージアム機能の強化** ・GWイベント開催(5/4,5)　※4/27～5/6まで毎日開館 ・8月からオリジナルキャラを活用した周遊イベント開催(8/3～2/24) →うまのすけぴっぴ等を活用したチラシ、ポスター、のぼり旗による広報 ・(一社)奥四万十高知と連携した周遊商品の検討 (「たにんごや(打井川地域づくりセンター)」を活用した食事提供を含む。) **2　関係機関と連携した集客力の向上** ・南国市と連携した周遊イベント開催(8/3～2/24)	9,842人 (R6.4月～8月) ・R6到達目標達成率：78.7% ・対前年同期比：83.0%	**C**	**(成果)** ・町内への滞留につなげるための周遊イベントを開始 **(課題)** ・魅力のある企画や集客につなげる広報の充実 ・来場者の満足度向上や滞在時間の延長に向けた飲食の提供の検討 **(今後の方向性)** ・観光協会や広域観光組合との連携や集客を図るイベント等の開催が可能な人員体制の検討 ・軽食や冷凍弁当の導入の検討 ・予土線の活用や愛媛県方面との連携の検討
観光	24	**～しまんとがわのまんなか～四万十町観光交流促進事業** (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十町 ・(一社)四万十町観光協会　等 四万十町の山・川・海の豊かな地域資源がつくりあげた景観や歴史、文化等に磨きをかけるとともに、ものづくりや食を中心としたまちづくりを進めることで、四万十町流域での滞在型観光を推進する。	施設等利用者数	78.3万人 (R4)	80.1万人	82万人	**1　受入態勢の充実・整備** ・草花ガイドの育成、植物観察ツアーの企画 ・民泊の受入検討、インバウンド環境の整備 ・四万十川流域での文化、景観、食、ものづくりを生かした周遊ルートの作成 ・旅行会社へのセールス、旅行雑誌等を活用したプロモーション **2　観光資源の造成・磨き上げ** ・町有観光関連施設の整備・磨き上げ、自然や文化、食を生かした体験プログラムの造成・磨き上げ **3　情報発信力の強化** ・道の駅等拠点との連携やSNSを活用した効果的な情報発信 ・「花とみどりのまちづくり」によるPR ・旅行会社へのセールス、旅行雑誌等を活用したプローモーション	**1　受入態勢の充実・整備** ・植物観察会の実施 →5/11(34人)、6/15(30人)、9/28 ・ホビー館オリジナルキャラクターを活用した周遊イベント(8/3～2/24) **2　観光資源の造成・磨き上げ** ・老朽化したふるさと交流センターの磨き上げのため、基本構想策定プロポーザル審査会を開催→業者の決定 ・こいのぼりの川渡し(4月) ・よってこい四万十(5月) ・金太郎夜市(7月) ・大正あゆまつり(8月) **3　情報発信力の強化** ・(一社)四万十町観光協会の公式SNSを活用したPR ・四万十町公式noteを活用したPR ・「旅色」(Webメディア)への掲載によるPR(6月～)	32.6万人 (R6.4月～8月) ・R6到達目標達成率：97.6% ・対前年同期比：89.8%	**B**	**(成果)** ・新たな媒体(Webメディア)での観光PRの開始により若年の層へのPRにつながった。 **(課題)** ・四万十町単独の商品PRでは旅行会社のニーズに合わず、商談会等で成果を得ることが難しい。 **(今後の方向性)** ・(一社)奥四万十と連携し、高幡地域でのPRを実施

(2)目標の達成に向けた進捗状況等

※達成度の基準について

進捗状況の基準	
S	数値目標の達成率　110%以上
A	数値目標の達成率　100%以上110%未満
B	数値目標の達成率　　85%以上100%未満
C	数値目標の達成率　　70%以上　85%未満
D	数値目標の達成率　　70%未満
ー	達成度の判断が困難なもの

【P(Plan)】								【D(Do)】	【C(Check)】・【A(Action)】		
									現時点の進捗状況		
分野	№	項目名・実施主体	指標	出発点	R6 到達目標	R9 目標	R6計画	R6取り組み状況	R6到達目標 に対する現状	達成度 (※)	現状分析
観光	25	**四万十町観光交流拠点施設の整備** (四万十町) 【実施主体】 ・◎四万十町 高速道路の延伸を見据え、窪川中央インターから窪川地区、大正地区、十和地区への交流人口の拡大など人の流れをつくるため、花などをテーマとした全町的な展開で、事業・拠点施設整備を実施することにより、新たな観光客等を含め町内での滞留・滞在を推進する。また、町内への周遊促進による商工・観光事業者の所得向上と地域の活性化につなげる。	道の駅集客数	40.5万人 (R4)	45.1万人	49.7万人	**1　受入体制の充実・整備** ・観光交流拠点の活用・運営等に関する関係団体等との協議・連携 ・町内各地の花をテーマとした施設の整備や既存の取り組みの磨き上げ **2　観光交流拠点施設の整備** ・意見公募の結果を反映した基本計画の見直し **3　周遊、滞留・滞在型観光の推進** ・デジタルサイネージ設置等によるPR ・道の駅等拠点との連携による情報発信 ・町内周遊観光促進事業の実施	**1　受入体制の充実・整備** ・観光交流拠点施設の基本計画策定業務の業者の決定(プロポーザル) **2　観光交流拠点施設の整備** ・意見公募の結果を反映し、公園整備へ方針転換 →四万十町の魅力発信及び大規模災害時の避難場所等として活用できる施設整備を検討 **3　周遊、滞留・滞在型観光の推進** ・ホビー館を中心とした町内周遊イベントの実施(8/3～2/24)	17.6万人 (R6.4月～8月) ・R6到達目標達成率：93.7% ・対前年同期比：92.3%	**B**	**(成果)** ・新たな機能配置と活用方針を持った施設案の決定 **(課題)** ・地域住民を巻き込んだ整備内容の精査 **(今後の方向性)** ・関係団体及び地域住民(公募)を集めたワークショップの開催により整備内容を検討していく。

2 令和６年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況（交付決定又は採択事業）

単位：千円

取り組み	事業概要	総事業費(補助金額)
■No.５ 四万十ポークのブランド化の推進(四万十町) ※特別承認事業 8/15 採択	・畜舎整備による生産拡大 ・機械化による労働生産性の向上 ・ブランド化に向けた安定的な出荷体制の確立	507,457 (50,000)